



CREATE DREAMS

こども 夢・創造 プロジェクト

2011年度 2011年度第2期
活動報告 & こども新聞記者活動報告

公式ホームページもあわせてチェックしてね!

www.kodomo-yumepro.org

2011年度のプログラムレポート
(写真・講師からのメッセージ動画・参加者の声)
などの情報を発信中!

「こども夢・創造プロジェクト」は、
ものづくり職人やクリエイター、アーティストなど、
さまざまな分野の「プロフェッショナル」を講師に迎え、
みなさんのあこがれの分野や技術、作品づくりなどを体験できるプログラムです。
「やってよかった」と、感動の本格的体験がいっぱい!
今回は、2011年度に開催したプログラムの模様と
第2期こども新聞記者の活動を紹介します。

こども夢・創造プロジェクト
実行委員会 (2011年度)

「こども夢・創造プロジェクト」は
大阪市と民間企業・団体の協働により
実施しています。

■ 実行委員長 篠崎由紀子 (キッズプラザ大阪館長)

大阪市 Design Your Energy 夢ある明日を 大阪芸術大学
Osaka University of Arts

ソフトコンサルティング株式会社 特定非営利活動法人
SOFT CONSULTING, INC. アーツタウン (順不同)

お問い合わせ 「こども夢・創造プロジェクト」実行委員会事務局

office@kodomo-yumepro.org

*大阪市こども青少年局青少年課 (こども育成事業グループ) 内
06-6208-8161 (土・日・祝除く 9:00~17:30)

*NPO 法人 アーツタウン 内
080-3804-3857 (土・日・祝除く 9:00~17:00)

朝日新聞 教育プロジェクト Educational Project
つくって学んで応募しよう!

夏休みの自由研究にピッタリ!

朝日新聞 無料1週間お試し読みで 朝日新聞を1週間読んで参加しよう!

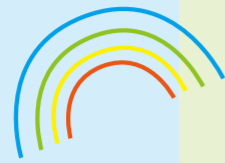
朝日エコしんぶんコンクール開催!

朝日新聞社では、昨年に続き親子で環境や身近なエコについて考え、
手作りの新聞を作る「夏休みだよ! 朝日エコしんぶんコンクール」
を開催します。ふるってご応募ください。

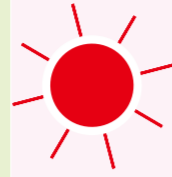
朝日新聞 無料1週間お試し読みは
0120-084-056
受付時間/10:00~20:00 (土日祝含む) キャンペーン番号 1209

朝日エコしんぶんコンクール
詳しい応募要項は (応募用紙もダウンロードできます)
<http://info.asahi.com/dora/>
お問い合わせ/朝日新聞「地球教室」事務局
03-5211-7286 平日10:00~17:00

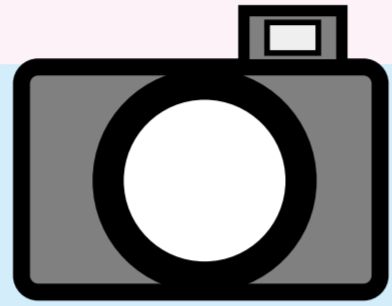
昨年度金賞受賞
北海道常呂郡訓子府町立 居武主小学校 宮内 盛弥くんの作品



活動報告



今回は、「産業交流フェア」、「パティシエのごと」、「トップアスリートの夢・授業」取材しました。こども記者たちは、慣れないインタビュー体験に戸惑いながらも、質問をし、記事をまとめました。その取材記事をここに掲載します。取材にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



こども新聞記者

講師／浅野稔氏、江原健大氏
協力／(株)朝日新聞社
朝日新聞の記者と一緒に取材に出かけ、実際にやってみたりインタビューしたり、記事を書くなどの記者の仕事を経験します。
取材協力／(株)いわざき (有)山伸
大阪あべの辻製菓専門学校 大阪市立董中学校

もの作りの知恵と情熱がいっぱい

～産業交流フェアに3000人～



昨年10月21、22日の両日、大阪市東住吉区の長居陸上競技場で第47回産業交流フェアが行われました。今回は平野区、東住吉区の地元企業や学校、区役所や協会などから過去最多の47団体、54ブースが出店、三千人近くの来場者がありました。今回の実行委員長、岩崎雅明さんは食品サンプル会社いわざきの社長さん。僕たちも実際にサンプル作りを体験させてもらいました。

食品サンプルとは、飲食店の前にある本物のような料理や食べ物を樹脂や口ウで作ってあるものです。今回は、溶かした口ウを使ったえび天作りに挑戦しました。溶かした口ウを水に落とすとタイミングが難しいのですが、完成したものをさわるとやっぱり口ウの感触がしたけれど、見た目は本物みたいで自分でも驚きました。

取材に応じてくれたいわさきの岸下さんから「普通以上においしそうに作るのがコツ。生もの魚や野菜がとくに難しく、以前さしみを作った時も「よっかんみだ」と怒られたこともあったそうです。

次は、「童心にかえて楽しもう」と万華鏡作り。運送屋、額縁屋、鏡屋、ダンボール屋が一致団結、「子どもたちにも作りの楽しさを知ってもらおう」と企画しました。東日本大震災の時には、ダンボールのいすを贈ったそうです。大切なのは、疑問を持つこと。疑問が調べたいという意欲を生み、調べるとまた疑問が出てくる。そんな繰り返しの中で、本物の知識や技術が身についていきます」と教えてくれました。

最後に取材したのは有限会社山伸さん。パネの力で曲がる手すりなどを作っています。新商品は「FROセンサ―」内蔵の手すり。



食べて喜んでもらえるお菓子作りを ～パティシエは素敵な職業～



取材したのは昨年11月12日、先生がイチゴのショートケーキ作りを美演してくれました。卵、グラニュー糖、ハチミツをしっかりと泡立て、はかりき粉を混ぜ合わせ、オーブンで焼き上げると、ふわふわしたスポンジ生地が出来上がります。この泡立て方と混ぜ方が大きなポイントだ

大阪市阿倍野区松崎町3丁目にある辻製菓専門学校。玄関を入ると、甘い香りに包まれていました。こどもパティシエを目指す人たちが学ぶ学校です。パティシエと言っても、お菓子屋さんやホテルなど、いろんな場所で働く人がいます。そんなパティシエを育てている辻製菓専門学校、鈴木麻紀先生に取材をしました。この学校は、大阪、東京のほか洋菓子の本場フランス・リヨンにも教室があり、生徒は留学して学ぶこともできます。



そうです。泡立てた生クリームを塗り広げ、イチゴをのせると完成。試食もさせてもらい、生地がふわわり、しっとりとして、とてもおいしかったです。鈴木先生は、子どものころにお母さんがよくお菓子を作ってくれて、自分もおいしいお菓子を作りたいと思ったから、パティシエをめざしたそうです。鈴木先生の夢は「昔は、自分のお店を開くことでしたが、今は先生の仕事がとても楽しいので、たくさんパティシエを育てることです。」パティシエは、決して手先が器用な人でなくていいのです。お菓子を食べることや、作る事が好きな人、自分が作ったお菓子を食べてもらって、人に喜んでもらうのが好きな人。そんな人がパティシエに向いていると思います。最後に鈴木先生や助手を務めた同校職員の平野織恵さん、紅粉薫さんから子ども



記者へのメッセージをいただきました。「お菓子は人を幸せにする食べ物。それを作っている自分は本当に幸せです。みなさんも、自分の好きだと思えることを仕事にしてください。」あきらめないでチャレンジすること。「食べられることの楽しみやありがたみを忘れなさい。」そう話す鈴木先生たちはとても格好良く、輝いて見えました。パティシエはとても素敵な職業だと思いました。

夢はロンドンオリンピックで活躍すること!

～陸上競技・荒川大輔選手の「夢・授業」～



2011年12月11日に大阪市立董(すみれ)中学校で、走り幅跳びの荒川大輔選手を迎えて、トップアスリートによる「夢・授業」が行われました。陸上部の1、2年生を中心に76名が参加し、授業の前半は荒川選手の講演会、後半は実技指導がありました。



講演会では、荒川選手が走り幅跳びを始めたきっかけや、トップアスリートになるまでの過程を楽しく話してくれました。骨折などの試練を乗り越えてトップアスリートとなった荒川選手が「けがは、自分を見直すいい機会になった」と話すが印象的でした。

実技指導は、主にドリルと呼ばれる基本練習がメインでしたが、取材している私たちも楽しくなりました。指導後に荒川選手は「いつもは練習で歩くことはあまりしないけれど、今回は姿勢を意識してもらったために歩くことも練習に入れてみました。早く走れたり、遠くへ跳べたりするのは「コツ」の積み重ねです」と、生徒たちにエールを送りました。



荒川選手が大切にしている言葉は、「一つのことを念じる」と道は開けるといふ意味の「一念通天」だそうです。荒川選手は友達から贈ってもらったこの言葉を色紙に書いて、今回の授業を受けた生徒たちに渡しました。

そんな荒川選手の夢は、ロンドンオリンピックで活躍すること。さらに、「知らないことは夢にはならない。だからまず知ることが大事。そのためにテレビや新聞など様々な方法で情報を得て、人と話をしよう。そして興味を持ったら、本気でやる。本気でやると自分のどこが足りないかがわかる。それが夢につながるよ」と、夢を持つために情報収集が大切であることを教えてくれました。荒川選手にはぜひ、ロンドンオリンピックに出場して、活躍してほしいです。